

第27回 みんなで語ろう！ ～いなむら市長とともに 車座集会～

<テーマ型：切れ目のない子どもの育ち支援について>

と き	平成29年6月22日（木） 午前10時～11時30分
と ころ	尼崎市立小田公民館 2階学習室
参加者等	参加者 33人 市長ほか関係者 15人 合計 48人

1 車座集会の概要及び本日の進行スケジュールについて説明（職員）

2 市長からの説明

- ・尼崎市では、「子どもの育ち支援条例」が制定されており、その中で0歳から18歳までを支援対象のこどもと定義している。0歳から18歳まで色々なステージがあるが、行政の担当が細かく分かれているので、就学前・就学後、教育委員会という独立した機関も一緒になってやっていくことになるが、その接続や支援者ネットワークがうまくいかないと・・・と言うのが根底の問題にある。
- ・「切れ目のない子どもの育ち支援について」の資料に基づき、子どもの育ち支援施策における現状と課題について説明（詳細は別添資料参照）
 - ① 総合相談窓口
 - ② 発達障害
 - ③ 児童虐待
 - ④ 不登校
 - ⑤ 子どもの育ちに係る支援センターの必要性
 - ⑥ 支援センターの機能
 - ⑦ 児童ケースワーカーの役割
 - ⑧ 支援履歴の電子記録の構築
 - ⑨ 尼崎・ひと咲きプラザ（旧聖トマス大学）の全体像

3 市民と市長との対話

- ・発達障害のかたのサポートをしているが、発達障害の認知の低さが大きな問題だと考えている。特に軽度の方の就労が難しくアルバイトする方が多い。ぜひ、ひと咲きプラザで就労の手助けをしてほしい。
- ・児童虐待について、相談や支援には色々あるようだが、行政が最終的に中まで入っていけない。近所で大声を聞いて本人に確認しても、親に大丈夫だと言われ介入できない。
⇒ 命の危険が伴うものは介入するが、親御さんが大丈夫と言われたら市には立ち入り権限はない。都道府県レベルで設置されている児童相談所には立ち入り権限が付与されている。
- ・不登校の子、身体的異常がなくても校門をくぐれない子がおり「はつらつ学級」に通っていると聞くが、市内に一つしかないというのは問題ではないか。
⇒ 現在「はつらつ学級」はひと咲きプラザに移行しているので、遠い地域の子のためにも増設したいと考えている。遠くて心配していたが、旧大学の雰囲気合うのか気にいって通ってくれている。
- ・不登校、虐待についてセンターで対応するのは素晴らしいが、予防の観点がどこにあるか疑問。また、子ども達の居場所を集約するのもいいが、地域に複数ないと繋がっていかないのではないか。
⇒ これ全体が予防的な取組のプランである。0歳から18歳、就労まで切れ目なく、早い段階から見守りと寄り添いが続けられるようにするためにも居場所が地域に必要。子ども達と接する学校の先生や民生児童委員がいる地域の方々と繋いでいくソーシャルワーカー機能が大事だと思う。

⇒平成 30 年 1 月から、現在 6 か所ある保健センター機能を集約し、南北に 1 か所ずつ「保健福祉センター」という福祉と保健を総合的に繋げていく支援センターを作る。そこでも色々な支援メニューを行い相談を受けるが、より専門的な学びの場とかが必要な場合はひと咲プラザに繋いでいく。

- ・たじかの園は、児童発達支援センターとしての機能を持ち、年間 400 件ほどの相談を受けている。その中で、学校や幼稚園・保育園でコミュニケーションがうまくいかないという相談が多く、3 人の相談員では限界である。現状のたじかの園の相談とひと咲きプラザとのすみわけをしてほしい。
⇒ひと咲きプラザでは発達障害のグレーな部分を含めてする予定なので、ソーシャルワーカー機能を強くし、どっちつかずにならないようにしていきたい。

- ・多文化共生に関わることで、日本語が母国語でない子どもに対して、将来母国へ帰ることや親との会話を考えると母国語の支援が必要である。日本語と母国語の両方を勉強しないと発達障害になる可能性が高いとも言われている。

⇒一つの場所で集まってというより、公民館でも日本語教室を実施していますし、地域の資源・活動などを把握して、情報交換や一緒に何かジョイントするようつなぎの拠点になるといいと思う。

- ・聖トマス大学の図書館には、洋書や貴重な資料が多くあるので語学教育等に活かせるのではないか。

⇒一部の本も含めていただいているし、図書機能の活用も考えていきたい。

- ・尼崎では不登校が高いと出ているが市外のフリースクールに通っているのを把握しているか？また、連携しているか？

⇒把握できていないと思います（教育委員会に確認しないと分かりませんが…）

- ・フリースクールに通っている子が「早く学校に戻りなさい」と言われてフリースクールにも行けなくなった事実があるが、公立ではフリースクール作れないのか。

⇒それはフリースクールではなく、はつらつ学級になる。

行政ができることと民間だからこそできることがある。フリースクールは民間だからこそできる、活かされている事例だと思う。民間だから基盤が弱い、フリーな部分を残しながらできているという利点が大事だと思う。フリースクールを十分認知できていないのも問題かもしれないが…

- ・赤ちゃんとお母さんに優しい施設・地域社会を作ることを念頭に、お母さんたちのおしゃべり会を開催、お母さんとお子さんの触れ合いを促すような活動をしている。母乳育児はお金がかからずスキンシップができると言われ、親子関係が良くなる。そのおしゃべり会での疑問が、保健所で指導されたことと自分の子が違う場合にどうしたらいいかわからず悩むということ。市が、適切な情報提供と、お母さんに寄り添える支援者の育成にもひと咲きプラザや保健福祉センターを活用してほしい。

⇒子育てにも親世代と現役時代とで育て方が異なり混乱をきたしているなかで、指導者たちもどうアドバイスすればいいのか悩んでいるのが現状です。保健師も世代交代しており、人材育成を行っているが、ネグレスト傾向の母親から細かいことまでこだわって子育てをしている方まで様々な方がいる中で、全ての方にあてはまる指導というのは難しい。個人差があるのは伝えているが…

- ・就労支援はグレーゾーンである。発達障害は 1 つのことには集中できるので専門学校に行く子が多いが経済的に難しい。高校卒業するまでに就労準備ができないか？

フリースクールでは単位が取れない。学校へ戻る前提でののはつらつ学級でも学校へ戻らないと単位が取れない。単位の取れるフリースクールを考えてほしい。

⇒専門的機能をひと咲きプラザに集めるのが目的ではない。就労移行支援の前倒しは大事だと思うのでぜひ挑戦したい。フリースクールは中退扱いになるので、学習したことやどう過ごしたかを証明し単位に代わるものとして履歴書にプラスできればいいと考える。

- ・健康診断を受けない親がいる。今は近くの支所で受けれるが2所化で遠くなると聞いた。小さな子を抱えて行くのは大変だからバスを出すなど支援できないか？
⇒やっと健診率が上がったのに、2所化で遠くなって来ないのではと心配している。現存の施設では、6所それぞれで準備をし市指定の日しか受診できないし、健診の環境も良くない。しかし、新しい施設では、常に健診を実施し（日によって地域を指定することはあるが、）いつ来ていただいてもいように融通していきたい。また、セミナーを開催するところも作るなど充実したい。ただ、交通の便、駐輪場問題、ベビーカー置き場など課題があることは認識している。
- ・発達障害支援で4歳からとあったが、1歳6カ月健診ではできないのか。
⇒1歳6カ月は既に健診があるし、就学前健診もあるが、ちょうど発達障害のグレーの色が濃くなりがちで、4、5歳児には健診がないので、5歳児検診をやりたいと考えている。
先ほど説明したひと咲きタワーの上に「学びと育ちの教育研究所」があり、そこにいる先生方にデータの分析や、アンケート実施などを行うなどアドバイスを受けながら進もうとしている。
- ・当たり前のことで忘れがちですが、学校に居場所がない子が不登校になる。居場所を作るのは大切だが、それなら学校って何のためにあるのか？
本来学校とは、全ての子が学びとするためにある場所である。学校に行けない子をなくす、全ての子が行ける学校にすること・・・が一番大事なこと。
⇒先生だけでなく、校長先生にも温度差があるように思う。学校の先生も特殊なとじた環境の中で仕事をされているので、どんどん外と繋がってもらえることが大事かなあと思う。そういう意味では、行政職員、専門の方、NPOの方などいろんな年齢・立場の方がひと咲きプラザに集まる中で、繋がっていければと考える、

本日は、たくさんの貴重な意見や素晴らしい意見が聞けて良かった。

これらの意見を子どもの育ち支援センター運営に取り入れていけるよう検討します。

ありがとうございました。

以 上